

実習目的

1. 組織の機能を知り多組織・多職種との連携とチームケアの実際を学び看護の役割を理解する。
2. チームの中で複数の対象者・家族の看護を実践する。
3. 実習における学びを考察し自己の看護観と今後の課題を明確にする。

実習目標

1. 複数の対象者に対するケアマネジメントが理解できる。
2. 領域実習の学びをもとに看護の継続性が理解できる。
3. 実習を通してチームの役割と機能が理解できる。
4. 対象者に必要な職種間連携の実際が理解できる。
5. ケアに際してヒューマンエラー防止の必要性和工夫が理解できる。
6. 看護倫理に基づいた行動ができる。

実習期間及び実習時間

期間：2020年6月29日(月)～7月10日(金)

時間：1限～4限の時間の範囲内 *期間および時間は、実習施設により異なる。

実習施設：実習施設一覧表参照

実習方法

1. 配置された施設の概要を把握し実習に臨む。
2. 臨地実習日は、実習展開を参照する。
3. 複数の利用者を受け持つ場合は2～3人（同室の範囲）までとし、原則として実習期間中は同じ対象を継続して受け持つことが望ましい。
4. 受持ち利用者については臨地の実習指導者の選出したリストから学生が決定し、同意は臨地の実習指導者を通して確認する。
5. 臨地実習初日は施設で立案されている看護（ケア）計画に基づいて実習する。2週目は自らが立案した看護計画に添って受持利用者の看護を実施する。
6. 可能ならば、施設ケア責任者の説明（施設組織概要、看護部・施設ケア組織概要、目標管理、人材育成、事故防止のための組織的な取り組み）を受ける。
7. 可能ならば、施設看護の説明（入所施設概要、看護体制、入所棟でのリスクマネジメント、多職種連携）を受ける。
8. カンファレンスは、臨地の指導者を交えて毎日30分程度行い翌日の実習につなげる。
最終カンファレンスは臨地実習最終日に行う。
9. 最終日は学びの共有を行う。

実習展開

1. 学生は看護統合実習の共通の目的と、老年看護学領域での目的・目標を理解し、それに添って、主体的に実習できるようにすること。
2. 学生は老年看護学領域の自己紹介書に必要事項を記入し、受持利用者選定に役立てること。
3. 以下の展開例をもとに実習施設において、実習スケジュールを組み立てること。

<実習スケジュール>

日付	曜日	実習内容	
6/29	月	午前：領域オリエンテーション	午後：臨地オリエンテーション
6/30	火	学内日	
7/1	水	見学実習	・各実習施設で可能な内容を計画
7/2	木	・師長・主任等管理職の業務(1日)	
7/3	金	・リーダーの業務 (1日)	
7/6	月	・在宅支援部門等との連携 (1日)	
7/7	火	・各勤務帯の役割とケア把握	
7/8	水	複数利用者への援助実施(3日)	
7/9	木	学内まとめ	
7/10	金	発表・記録提出(14:30)	

*臨地オリエンテーションの開始時間は実習施設による異なる。要確認。

評価方法 看護統合実習（老年）評価表に基づき評価する。

評価基準

5点	実施
5	根拠に基いた理解（説明）ができ、常に自立し正確に実施できる
4	根拠に基いた理解（説明）ができ、自立し正確に実施できる
3	根拠に基いた理解（説明）ができ、殆ど自立しているが一部正確性に欠ける
2	根拠に基いた理解（説明）および自立した実施が一部しかできない
1	根拠に基いた理解（説明）が一部できるが、自立して実施できない
0	根拠に基いた理解（説明）および自立した実施ができない

実習記録

- ・記録様式は、大学のホームページから各自印刷し、使用すること。
- ・記録様式1、2-1、2-2(日々の実習記録)については手書きとする。公文書に準ずる扱いのため、修正液の使用は不可。ただし、鉛筆書きは可。・その他の記録様式についてはパソコン・手書き、どちらでも可。

提出記録

1. 表紙
2. 看護統合実習（老年）評価表
3. 実習記録(記録様式1)
4. 実習記録(記録様式2-1・2-2)
5. 看護統合実習での学び(記録様式3)
6. 受持利用者の看護過程記録(介護老人保健施設では老年看護学実習Ⅰ・介護老人福祉施設では老年看護学実習Ⅱ・小規模多機能施設はどちらかを選択)

2020年度

看護統合実習記録
(老年看護学領域)

実習施設			
実習期間	2020年 6月 日 ~ 2020年 7月 日		
大学名	九州看護福祉大学 看護学科		
学籍番号		氏名	
担当教員名			
総ページ数			

看護統合実習(老年)評価表

実習場所:()施設

学籍番号:

実習期間:()年()月()日~()月()日

学生氏名:

項目	評価内容	配点	自己評価	教員評価	
マネジメント	複数の対象者に対するケアマネジメントを理解できる	5			
	領域実習の学びをもとに看護の継続性を理解できる	5			
	実習を通してチームの役割と機能を理解できる	5			
	職種間連携の実際を理解できる	5			
	ヒューマンエラー防止の必要性和工夫を理解できる	5			
ケアサービス	複数の対象者を把握し、健康課題を考えることができる	5			
	残存機能を生かしたケアができる	5			
	対象者に必要な看護の継続性を説明できる	5			
	専門性	施設職員とともにケアサービスを提供できる	5		
	家族およびキーパーソンの状況を理解し、支援を考えることができる	5			
	カンファレンスの学びをケアに生かすことができる	5			
	環境	構造上の安全性について説明できる	5		
人的環境に配慮し行動できる		5			
感染管理に配慮し行動できる		5			
他機関	地域における施設の位置づけと連携の実際を説明できる	5			
職業倫理	有効に文献を活用しケアサービスに生かすことができる	5			
	日々実習計画を立案し、記録提出・管理ができる	5			
	実習に必要な連絡・報告・相談ができる	5			
	自己の健康管理ができる	5			
	清潔に留意した身だしなみを整えることができる	5			
合計		100			

看護統合実習（老年看護学領域）の自己紹介書

実習期間	2020年 月 日～ 月 日	実習施設	
学籍番号		氏名	
老年看護学実習Ⅰ・Ⅱで印象に残っている学び			
老年看護学実習Ⅰ（介護老人保健施設）			
老年看護学実習Ⅱ（介護老人福祉施設）			
領域別実習で育んだ看護観と将来像			
看護統合実習で学びたいこと・受け持ちたい高齢者像			

実習目標： 例) チームの役割と機能が理解できる

*実習初日：看護統合実習に向けて自分の目標を記載すること。

*A3サイズで印刷し記入

看護統合実習（老年）記録様式1

年 月 日 曜日

学籍番号：

体温：

学生氏名：

行動計画	計画の根拠(事前学習含む)	実施内容	評価
項目毎に記載する。			
例) 1. チームリーダーおよびメンバーの役割と連携が理解できる	・利用者へ安全で安楽なケアを提供するためには、チーム内のリーダーとメンバーの具体的な役割と機能を知ることが重要である	・実施内容を具体的に記載する	・見学および実施した内容に対する評価
以下の点を見学する	事前学習		
・ 利用者の情報収集方法	①看護体制		
・ メンバー間の連携方法（連絡・報告・相談）	②ケア提供体制と方法		
・ メンバーの利用者へのケアと援助の方向性の確認			
・ 管理者への報告			
・ 他職種者との連携方法			
・ 緊急時の対応			
【目標達成度と翌日の課題】		【感想】	

実習記録(計画)

学籍番号：

学生氏名：

月 日

時 間	A氏	B氏
	*それぞれの項目において、根拠および留意点や観察点、ケアの優先理由を記入する	*立案した看護計画のどの部分にあたるのか、わかるように工夫すること。
8時20分	挨拶	挨拶
8時45分	環境整備	環境整備
9時	パルスレートの測定 観察、体位変換、観察結果に対するケア	
9時30分		パルスレートの測定 観察、観察結果に対するケア
10時30分	全身清拭	
11時		入浴介助
11時50分	配膳・食事介助	配膳
13時40分	パルスレートの測定 観察、体位変換、観察結果に対するケア	
14時10分		パルスレートの測定 観察、体位変換、観察結果に対するケア
14時40分	看護師に報告	看護師に報告

実習記録(結果・評価)

学籍番号：

学生氏名：

月 日

時 間	A氏	B氏
	<p>・利用者へのケアの実施結果と評価を分けて記載する</p>	

看護統合実習での学び

学籍番号：

学生氏名：

- * 自分の目標達成状況を含む
- * 項目や段落をつけて分かり易く記載すること
- * 引用文献を明記すること